

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会

MSW ニュース 6月号

2017年6月1発行

事務局：大浜第一病院

〒902-8571 那覇市天久 1000 番地

TEL (098) 866 - 5171

FAX (098) 864 - 1874

E-mail t-matayosi@ns.omotokai.jp

編集：小橋川 聡（牧港中央病院）

友寄 彩

会長挨拶

「専門職・専門職能団体としての役割を改めて問う年に！」

会長：樋口 美智子

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会が、平成24年6月1日に一般社団法人化されてから5年が過ぎました。平成28年度は、初めて沖縄県から「入退院支援連携デザイン事業」の委託を受け、会員・関係団体と協働して取り組むことができました。地域包括ケアシステム構築に資する人材育成・資質向上では、専門職リーダー養成・実務者研修を開催し、在宅医療移行に関わる医療ソーシャルワーカーの養成や多職種で取り組む退院支援等の課題を共有しました。また、医療と介護の情報共有に関しては、情報共有ツールや業務手順等のガイドラインを作成し、基盤となる理念や各専門職の役割を提示することができました。

平成29年度は、引き続き「入退院支援連携デザイン事業」を受託し、医療と介護を必要とする高齢者が、安心して在宅に移行することができるよう、在宅介護・医療専門職が高齢者一人ひとりの状況を身体的、精神的、社会的背景を十分に把握し、入院前から、入院中、退院、退院後も含めた標準的支援が提供できることを目的に事業を実施します。

・医療ソーシャルワーカーは、所属する医療機関が地域で担う機能を認識し、医療チームの一員として、広い視野と専門的知識・技術・態度を備え、個別の生活問題をアセスメントする力、また患者さんやご家族の権利を擁護し、他職種や関係機関と協働する力をさらに強化し、質を高めなければなりません。

また、病や障がい・老いを抱えながら、何処でどのように生活するかを患者さん自身が自己決定できるよう支援することが、今後ますます重要になると考えます。平成28年度に引き続き、経験年数に即した専門性の高い生涯研修体制の見直しを行い、体系化して整備します。

また、医療ソーシャルワーカーの業務が客観的なデータに基づき評価されるよう、業務統計の改善や臨床指標項目の検討等を行うとともに、実践研究に積極的に取り組む会員を支援します。

特に、一般社団法人として組織体制の見直しと事務局体制の改善を行い、平成30年度に予

CONTENTS

会長挨拶	1~2
初任者オリエンテーション報告	2
トピック	3
理事会議事録	4~5
お知らせ	5
初任者研修会 要綱	6~9
コラム、編集後記	10

定している九州医療ソーシャルワーカー協議会沖縄大会、沖縄県ソーシャルワーク学会開催の準備に着手します。

患者さんやご家族、他職種から信頼される実践を積み重ねるとともに、自らの専門性を積極的に様々な形で表現することが、ますます重要になってくると考えます。メゾ・マクロレベルにも視野を拡げ、会員の皆さんが多様な実践に取り組めるよう、協会としてバックアップしますので、積極的な協会活動への参画をお願いします。

平成29年度 初任者オリエンテーション&座談会 参加報告

南部徳洲会病院 比嘉 浩貴

平成29年5月20日（土）沖縄リハビリテーション病院にて初任者オリエンテーション&座談会に参加させて頂きました。

私はMSWとして勤めて今年で4年目になります。先輩から参加の声掛けがあり、皆さんと出会えるチャンスと思い参加を希望しました。結果的には17名の多くの方に出会えることができ、とても感謝しております。

座談会では、皆さんの苦勞話、ストレス発散方法、勤務時間、趣味、目標、決意、思想、個性豊かなお話しが聞け、自分自身にとっても良い刺激を受けました。

実は私自身、MSW協会に入った当初は活動に全く参加していませんでした。業務が多忙なこと、グループワークが苦手な事を理由に逃げていたかもしれません。

今となっては後悔しています。今回、多くの方が積極的に参加する姿に感銘を受けました。

今回の企画の目的は「仲間を作ること」

1つのコミュニティに参加することで共通の仲間ができることは、とてもラッキーな事です。

仲間と繋がることで、お互いが励ましあい、お互いが慰めあい、お互いが笑いあえる関係が後にお互いに連携がとれ、仕事をする上でもメリットはかなり大きいと思います。

私も含めて、皆さんの「行動力」が全てです。

自主的に行動し、今後のMSW協会を盛り上げていきましょう。

今後とも宜しくお願い致します。





トピックス

こころの健康は保っていますか？ ～メンタルヘルス指針から～

大浜第一病院 當銘由香

現代社会はストレス社会と言われるほど、ストレスは社会問題となっています。ストレスの発生要因、こころの健康問題発生過程には個人差が大きく、本人も気付かないうちに重篤化していることもあるため、ちょっとしたサインを周囲が見逃してしまうと発見が遅れてしまいます。

昨年の電通問題以来、ブラック企業や残業問題などが度々ニュースで取り上げられるようになり、労働者のストレス、メンタルヘルス問題も大きくクローズアップされ、厚生労働省もこころの健康問題＝メンタルヘルス対策強化に取り組み始めています。

そもそも我が国では、憲法 25 条で「健康で文化的な最低限度の生活」を営む権利を保障しています。私たち労働者がその生活を営むことが出来るように使用者が守るべき最低限の基準を示したものが労働基準法で、さらに労働者の安全のための基準を定めたものが労働安全衛生法です。

労働安全衛生法第 70 条の 2 第 1 項、第 69 条第 1 項に基づきメンタルヘルス指針が策定されました。労働者のメンタルヘルスケアでは、「セルフケア」「ラインによるケア」「事業場内産業保健スタッフ等によるケア」「事業場外資源によるケア」の 4 つのケアが継続的かつ計画的に行われることが重要だと言われています。

まずはストレスやメンタルヘルスに対する正しい知識と理解をした上で自己のストレスへの気付き、さらにそのストレスへの対処について検討することで、いざという時に自己対処ができることも多くなります。私は、昨年宿泊研修で学んだ『自己覚知』がセルフケアに活かされるのではないかと考えます。また、日頃から周囲と会話をすることも重要で、日常会話や表情などから「あれ？」と周囲が気づき、声掛けが行える環境を作ることもとても大事になってきます。

MSWの働く環境はストレスが多く飛び交っています。目の前の患者様、ご家族などクライアントに影響を及ぼさないためにも、MSW自身がストレスと上手に付き合える環境を日頃から整えていくことがとても重要です。

皆さんの職場でもメンタルヘルスに関する研修や対策室などが設置されていませんか？

一度自分の職場環境をチェックし、活用できる場所を確認してみてください。

また、自己のメンタルヘルスに気付くため、ストレスチェックテストをしてみたいはかがでしょうか？



平成29年5月 理事会 議事録

開催日時	2017（平成29）年5月15日（月）18：45～20：45
場 所	那覇市立病院 1階
出席者	樋口、大城、又吉、島袋、當銘（司会）伊禮（書記）、仲地、香村、石郷岡、新垣、泰

【各部局報告】

1. 研修部（香村）

① 研修日程

- HIV とともに生きる人々の暮らしを守る勉強会 vol1
日程：平成29年5月17日（水） 14:00～15:30
場所：沖縄リハビリテーションセンター病院
講師：宮城京子氏（琉球大学医学部附属病院 看護部 HIV コーディネーター）
- 中堅者研修
日程：平成29年10月28日（土）
場所：調整中
- 初任者オリエンテーション&座談会
日程：平成29年5月20日（土） 14:30～16:30 ※14:00 受付
場所：沖縄リハビリテーションセンター病院 8階会議室
- OGSV
日程：毎月第二水曜日 18:30～20:00
場所：那覇市立病院



② 議題. 初任者研修会の講義時間について

- 認定ポイント申請できるようにシラバスに合わせて90分にしてください。
→6月11日「医療制度改革の変遷とMSW業務」を60分→90分に変更。

2. 広報部（仲地）

① 6月号担当 牧港中央病院 小橋川さんが編集担当 5/25 締め切り

- トピックス→大浜第一病院 當銘さんに依頼

② 議題. はいさいワーク

- 様式統一し掲載する。
- どこまで掲載するかは各依頼者に確認する。
- はいさいワークはホームページで掲載する。ニュースには新着情報可否の記載のみ。
- 期限を決めて掲載する。→1ヶ月とする。

3. 社会活動部（樋口）

① ハンセン病回復者支援

- ハート相談センター相談員（樋口）全国活動報告

② 県民健康フェアが8月予定

③ 健康づくり運動実践活動団体助成事業

4. 渉外（樋口）

- ① 在宅医療・介護連携推進事業に係る市町村意見交換会及び離島町村情報交換会
→樋口会長が参会：5月18日（木）
- ② 6月10日 PSW 協会総会に基調講演のため樋口会長参加
- ③ 6月2日～4日 日本MSW協会全国大会
- ④ 県SW協議会の幹事団体引き継ぎ済み→PSW協会からSW協会。
毎月第一金曜日。福祉の窓は第三木曜日。

5. 事務局（當銘）

- ・入会者 2名
- ・総会参加可否確認中。

【次回の理事会】

日時	6月19日（月）18：30～
場所	那覇市立病院
担当	司会：當銘 書記：石郷岡 連絡係：安慶名

お知らせ

■めだかのホームルーム

6月7日（水）19時～

場所：沖縄協同病院

内容：今年度活動計画作成予定

■めだかの放課後

6月15日（木）19時～

場所：中頭病院

内容：今年度活動計画作成予定



平成 29 年度 沖縄県医療ソーシャルワーカー協会

初任者研修会 要綱

1. 開催の趣旨

実務経験 3 年未満の医療ソーシャルワーカーに対し、「基礎的な知識・技術を取得すること」、「すぐに実務に役立つ制度等を理解すること」を通し、標準的な医療ソーシャルワーカー業務や、価値・倫理を基盤にした実践を学ぶことを目的とする。

2. 主催

一般社団法人 沖縄県医療ソーシャルワーカー協会

3. 場所

大浜第一病院 2 階 会議室 2 (那覇市天久 1000 番地 TEL : 098-866-5171)

4. 日程

- ・オリエンテーション 5月20日(土) 14:00~
- ・1回目 6月11日(日) 9:00~
- ・2回目 7月2日(日) 9:00~
- ・3回目 10月1日(日) 9:00~

※プログラムの詳細は別紙を参照

5. 対象

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会に加入している者、又は、会員登録を希望する者(会費は H29 年度より徴収 6,000 円/年)で、実務経験 3 年未満の者。

※会員で 3 年以上の者も後ろで聴講可能(無料)。

※昨年度の受講者で、未受講の科目がある方は是非受講を行ってください!

※会員外は下記のように費用が発生します。

6. 費用

会員：無料(当日、会員登録者も含む)

非会員は各研修 1 回につき ¥3000

※オリエンテーションは無料

7. その他

●全プログラムの受講者には「沖縄県医療ソーシャルワーカー協会 初任者研修 修了証」が発行されます。

※昨年度の受講者で、受講できていない科目を全て受講した後、修了証の発行となります。

<申込み方法・お問い合わせ>

○申込書を記載し、6月7日（水） 17時までにFAXにて申込みください。

申込み・お問い合わせ先

北中城若松病院 FAX：098-975-6036（MSW 室直）
TEL：098-935-2277（代表）
MSW 香村真範

【プログラム】

— 1回目 — 平成 29 年 6 月 11 日（日） 会場：大浜第一病院

時間	内容	講師
9：00	受付	
9：30-11：00	医療制度改革の変遷と MSW 業務 ～社会背景を学び、より広い視野で業務を理解 し実践につなげる～	樋口美智子（那覇市立病院）
11：00-11：10	休憩	
11：10-12：40	医療ソーシャルワーカー価値・倫理	島袋恭子（那覇市立病院）
12：40-13：40	お昼休憩	
13：40-15：10	実践に必要な制度 ①生活保護 ～制度を理解し、より実践的に MSW としての活 動ができるようにする～	當銘由香（大浜第一病院）
15：10-15：20	休憩	
15：20-16：50	実践に必要な制度 ②医療保険 ～保険ってなあに？ 医療保険制度の給付を中 心に学びます～	望月祥子（ハートライフ病院）
16：50-17：00	アンケート記入 次回のお知らせ	
17：00	終了	

— 2回目 — 平成 29 年 7 月 2 日（日） 会場：大浜第一病院

時間	内容	講師
9:00	受付	
9:30-11:00	実践に必要な制度 ③介護保険 ～退院する際に最も利用頻度の高い制度！現場 で役立つ基本的な知識を学ぼう！～	新垣哲司（沖縄協同病院）
11:00-11:10	休憩	
11:10-11:50	医療機関機能別専門知識（急性期）	秦克之（中頭病院）
11:50-12:00	休憩	
12:00-12:40	医療機関機能別専門知識（回復期）	安慶名真樹（大浜第二病院）
12:40-13:40	お昼休憩	
13:40-14:20	医療機関機能別専門知識（ホスピス）	長原野（南部病院）
14:20-14:30	休憩	
14:30-15:10	医療機関機能別専門知識（精神科）	知花勉 氏（新垣病院 PSW）
15:10-15:20	休憩	
15:20-16:50:	チーム医療における MSW の役割 ～なぜ、チーム（多職種協同）が必要か。その中 で MSW の役割を学びます～	又吉智子（大浜第一病院）
16:50-17:00	アンケート記入 次回のお知らせ	
17:00	終了	

— 3回目 — 平成 29 年 10 月 1 日（日） 会場：大浜第一病院

時間	内容	講師
9:00	受付	
9:30-11:00	アセスメント	島袋恭子（那覇市立病院）
11:00-11:10	休憩	
11:10-12:40	記録について	秦克之（中頭病院） 當銘由香（大浜第一病院）
12:40-13:40	お昼休憩	
13:40-15:10	退院援助① ～患者（家族）の思いを大事にしながら、退院援助に必要な視点・知識・方法について学びます～	伊禮智則（那覇市立病院）
15:10-15:20	休憩	
15:20-16:50	退院援助② ～患者（家族）の思いを大事にしながら、退院援助に必要な視点・知識・方法について学びます～	角山信司（浦添総合病院）
16:50-17:00	アンケート記入 次回お知らせ	
17:00	終了	

お疲れさまでした！

コラム

「ある姉妹のお話」

担当：Y・N

姉のCさんは透析通院する患者さん。妹のHさんと2人で生活保護を受けて暮らしている。姉妹は若い頃ブラジルへ移民として渡り、10数年前に沖縄へ戻ってきたため親戚のほとんどはブラジルにいるそうだ。いつだったかブラジルの畑で写っている姉妹の写真を見せてもらった。

段々と物忘れが多くなってきたCさんは、自身の透析の事を忘れるようになる。電話が繋がらないので自宅へ訪問。本人：「何でこんなに調子が悪いのかね？」（透析を休んだからです）「気分が悪いから家で寝ておくよ」（透析したら治ると思うんだけど・・・）「私どこが悪いの？」（→主治医へTEL。先生から話してもらおう）。妹さんも「きつそうだから寝かせてあげてよ。え？透析はずっとやらんといけんの？明日行くから今日はいいよ～」と、毎度こんな調子。

いよいよ体調を崩してCさんは入院。透析で回復してくると「何で家に帰れないの？私どこも悪くないよ。」・・・そこで透析日に迎えに行くようサービス導入。介護タクシーに迎えてもらい、時々休みながら何とか3ヶ月は家で過ごした。そしてまた、長期欠席が続き入院。

「次は施設だね」と主治医。家に帰ったらまた透析に来ないよね、と。色々工夫してくださった介護サービス側も限界とのこと。（透析に来ないから家に帰れないのか・・・？）院内で散々協議したが、Cさんは透析拒否している訳ではなく、忘れてしまうだけ。生命維持に透析は不可欠。本人をその都度説得しながら透析を継続していける環境が良いという結論になる。

ところで妹のHさんは「まだ帰れないの？」とつぶやきながら病院へ通う。ほとんど毎日ゴーヤー弁当とコーラを買って持参。時々タコの刺身も。私「・・・食べました？」本人「食べてないよ～笑」（忘れたふりしてる！）何度説明しても食事制限を守れず。お互いの安定剤である姉妹を無理に離すこともできなかった。

その後疎遠だった親族へ相談しながら施設を探すが、連絡が取れなくなる期間もしばしばあり「やっぱり責任もてない」と破談。別の施設へ入所するも10日で戻ってきた。ようやく姉妹で入れる施設が見つかった頃、Cさんは急変され天国へ行かれた。

妹のHさんが近所を歩いているのを時々見かける。良かった、わりと元気そうだ。何かとお騒がせな姉妹だったが、長期入院のなか病室で姉妹喧嘩したり、ベッドに2人並んで眠っている姿を思い出すと、病院でもかなり「その人らしく」いたような気はする。そして、2人が家で過ごす方法は本当に無かったかなあと振り返る。私の中で終わらないケース。そんな姉妹のお話でした（^^）

編集後記

じめじめとした季節がやってきました～！！でも今年の梅雨は雨が少ないような気も、。

梅雨明けしたら、海にバーベキューに、、、楽しいことがいっぱい待ってますね♪

今年も沖縄の夏を満喫しましょう(*^^)v

お忙しい中、期日が短いにも関わらず快く原稿を引き受けてくれた皆様、大変感謝しています。ありがとうございました！！

